



読解力向上への道標

令和3年10月21日発行
第1号
福島市教育委員会
教育研修課

「あの頃」をともに

「子どもたちは教科書をちゃんと読めているのか？」

このような問いが生まれてから、読解力の向上が叫ばれるようになりました。しかし私は、「子どもたちは教科書がちゃんと読めていない」ことを、すでに教師が認知しているかのような授業は、ずいぶん前から行われていたように思います。

【家庭科のボタン付け】

「では、先生がやってみます。」大型の針とボタンで、子どもの前でやってみせる。教科書に書かれている手順を読ませることはしない。
(読んでもきっと分からないから…)

【プリントなどの答え合わせ】

教師が答えを言って、子どもが自分のプリントに○をつけていく。文章で解答する問題にくると、「その問題は先生が○つけします。」と言って、飛ばす。
(自分が書いた文と模範解答が同義になるかの判断がつかないだろうから…)

【社会科などで】

「これから大切なところにアンダーラインを引きながら、一緒に読んでいきます。」
(あと2時間でこの単元を終わらせなくてはならないから…)

これらは、授業を進めることが最優先され、「自分で読む」ことや「文章を評価する」ことから教師が子どもを遠ざけているのではないか、子どもを「読むこと」から守ってしまっているのではないか、と思わせる授業です。

私たちはどんな授業を行うべきか、本当の意味での「学びの保障」とは何か。それは、全てが「子どもに力をつけること」につながります。そのつけるべき「力」の一つに急浮上しているのが、教師自身が「既に気づいている」読解力といえます。

読解力が身につけていないのならば、そこに立ち向かわせなければなりません。読み解くための武器（スキル）を与えなければなりません。そうして、その読解力をつかって、教科の見方・考え方はたかたかた学びを学力の向上につなげなければなりません。そのための授業改善が、今求められているのです。

今年度、福島市教育委員会における「読解力向上推進事業」(※裏面参照)により、「読解力の向上に関する調査研究部会」を立ち上げました。市内の小・中学校から10名の先生方が調査研究協力員として委嘱され、リーディングスキルテスト(※裏面参照)の結果をもとに、読解力向上につながる授業について実践研究を行っています。その中で検証された、教材研究の在り方、指導のポイントや手立てなどを今後、このリーフレットにて発信していきます。多くの先生方にご活用いただき、福島市の子どもたちの学力向上につながればと考えております。

子どもたちが福島未来を担うとき、「あの頃から読むことが楽しくなった、授業が分かるようになった」と振り返る「あの頃」を、ともにつくってきましょう。

(読解力の向上に関する調査研究部長・福島市立東湯野小学校長 瀬戸 和子)

読解力向上推進事業 概要

1 目的

超スマート社会（Society5.0）の到来やグローバル化の進展により、予測不可能な社会を生きる子どもたちには、持続可能な社会の創り手として、自ら考え自立的に生きるための基礎的な力を育成する必要がある。

福島市の児童生徒の基礎的読解力の実態をリーディングスキルテストから捉え、調査研究によって明らかになった指導内容や指導方法等を各学校において実践し、授業改善に取り組むことで、児童生徒の「よめる、つかえる力」の育成を図り、学力向上を目指す。

「福島市教育振興基本計画（令和3年度～7年度）」

2 実施方法

(1) 研究校・協力校（2年間の指定）

- ・ 令和3・4年度 研究校 野田小学校 協力校 野田中学校
- ・ 研究校は、取組の成果を2年目の年に公開する。
- ・ 研究校の5・6年生、協力校の1・2年生は、2年間にわたりRSTを受検する。

(2) 抽出校（1年間の指定・3年間で市内全小・中学校が受検）

- ・ 令和3年度抽出校
〈小学校〉 福島第一小学校 福島第二小学校 福島第三小学校 福島第四小学校
清明小学校 三河台小学校 森合小学校 渡利小学校
南向台小学校 杉妻小学校 蓬莱小学校 蓬莱東小学校
〈中学校〉 福島第一中学校 福島第二中学校 福島第三中学校 福島第四中学校 岳陽中学校
- ・ 抽出校は、小学校5学年、中学校1学年がRSTを受検する。
- ・ 抽出校は、児童生徒の基礎的読解力の実態を把握するとともに、読解力向上に向けた取組に生かす。

リーディングスキルテスト（RST）の6つの問題タイプ

1 係り受け解析

- ・ 主語・述語や修飾語・被修飾語など文を構成する要素の関係（＝係り受け）の理解など、文章の基本構造を把握する力

2 照応解決

- ・ 「それ」「これ」などの指示代名詞が何を示すか（＝照応）の理解など、代名詞等が示す内容を認識する力

3 同義文判定

- ・ 2つの文が同じ意味を表すかどうかを判断する力

4 推論

- ・ 文の構造を理解した上で、体験や常識、その他の様々な知識を動員して論理的に判断し、文章の意味を理解する力

5 イメージ同定

- ・ 文章と図形やグラフを比べて内容が一致するかどうかを認識する力

6 具体例同定

- ・ 文章で書かれた定義を読んで、それと合致する具体例を認識する力